

コミュニティアクション 2011 (Community Action on AIDS 2011) 実施報告

「エイズとわたし」という統一したコンセプトにより、厚生労働省や全国地方自治体の世界エイズデー啓発キャンペーンと協調しつつ、コミュニティ主導のキャンペーンを同時並行的に実施した。具体的にはキャンペーン公式サイト [ca-aids](http://www.ca-aids.jp/) を開設するとともに、サイトおよびキャンペーンテーマを紹介したチラシを作成、全国の HIV/エイズ関連 NPO/NGO や保健医療機関、地方自治体等の協力を得て、イベント情報の収集と発信を行った。

【実施期間】

2011 年 11 月 15 日 (火) ～12 月 31 日 (土)

ただし、公式サイト「ca-aids」は 10 月 1 日に開設。

URL: <http://www.ca-aids.jp/>

【実施内容】

1. 共通課題による全国的な HIV/エイズ関連イベント開催の促進
2. 全国の HIV/エイズ関連イベントの情報集約と広報支援

★10 月 1 日 (土) 公式サイト開設

★12 月 28 日 (水) 新着情報更新終了

公式サイトは原則として土日と祝日以外は毎日更新とし、サイトを訪れた人が毎回、何らかの新しい情報を入手できる状態を目指した。この目標はほぼ達成することができた。新着情報の更新は 12 月 28 日で終了したが、サイト自体はその後も継続して公開している。また、ツイッターによる情報発信はキャンペーン期間終了後も続けており、ソーシャルメディアの積極的活用によるコストパフォーマンスの高い持続型情報キャンペーンを実現した。

印刷媒体としてチラシを作成し、関係機関等に配布した。API-Net (エイズ予防情報ネット) の平成 23 年度「世界エイズデー」特設ページにもチラシの pdf 版を掲載し、全国でプリントアウトして使用可能であることを呼びかけた。

http://api-net.jfap.or.jp/event/HivInsWeek/special2011/images/2011wad_leaflet.pdf

【実施体制】

コミュニティアクション 2011 実行委員会：

長谷川博史 (委員長、JaNP+)

荒木順子 (コミュニティセンターakta)

宮田一雄 (エイズ予防財団、エイズ&ソサエティ研究会議)

中村正 (エイズ予防財団)

事務局： 公益財団法人エイズ予防財団

呼びかけ人：

日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス（代表：長谷川博史）

コミュニティセンターakta（代表：荒木順子）

MASH 大阪（代表：鬼塚哲郎）

エイズ&ソサエティ研究会議（代表：根岸昌功）

アフリカ日本協議会国際保健部門（ディレクター：稲場雅紀）

エイズ予防財団（理事長：木村哲）

【成果】

・ イベント情報

全国各地で実施されるイベントの情報を掲載 64 件

・ Features

コミュニティアクション 2011 期間中の HIV/エイズ関連ニュース 26 件

・ わたしのエイズ宣言

さまざまな立場の人が自分にとってエイズの流行とは何かを投稿 18 件

・ 賛同者（個人） 24 人

・ 賛同団体 22 団体

・ ツイッターによる情報紹介

info@ca-aids.jp によるツイート及び実行委員によるリツイート 多数

・ チラシの作成配布（エイズ予防財団） 2 万枚

全国 138 自治体、380 拠点病院、NPO64 団体に送付

イベント会場などでの配布

【キャンペーンテーマ】

公式サイトならびにチラシで厚労省主唱のキャンペーンテーマを紹介し、コンセプトの共有をはかった。また、コミュニティ主導のキャンペーンであることを重視し、コミュニティアクション 2011 については、共通コンセプトのもとで独自テーマを設定した。また、厚労省主唱キャンペーンテーマをより明確に伝えるためのキーメッセージとコンセプトを作成し、あわせて公表した。

2011 世界エイズデー国内啓発キャンペーンテーマ

《エイズとわたし ～支えることと 防ぐこと～》

コミュニティアクション 2011 テーマ

《エイズとわたし つながるコミュニティ》

キーメッセージ

どこかでエイズの流行と触れあっている「わたし」

すれ違ったかもしれない「わたし」

だれが何を支え、何を防ごうとしているのか

いろいろな人たちの「エイズとわたし」を聴いてみたい
そして語りた

コンセプト

エイズ対策の両輪は予防と支援だとよく言われます。この30年のHIV/エイズとの闘いを振り返れば、対策の最大の推進役は、HIVというウイルスに感染した人たち、エイズの流行に影響を受けている人たちでした。「影響を受けている人たち」とは多くの場合、HIV陽性者の家族、恋人、友人、知人、そしてHIV感染の高いリスクにさらされやすく、そのために社会的な差別や偏見を受ける恐れのある人たちを想定して使われています。その人たちの闘う力を支えることで、予防のメッセージもまた、社会に広く伝えていくことが可能になります。

一方、日本国内でHIVに感染している人はエイズ動向委員会の報告ベースでも年間1500人前後に達しています。累積報告数から考えると、少なくとも2万人を超えるHIV陽性者が、会社などで働き、学校で勉強し、映画を見に行ったり、バーで一杯やって帰ったり、テレビでなでしこジャパンを応援したりしている現実がすでにあります。そのリアリティ（現実）を受け止める想像力さえあれば、「影響を受けている人たち」にはもっと大きな広がりが出てくるはずで、支える力は影響を受けているからこそ生まれてくるといった事情もあります。

そうした広がりの中でもう一度、「エイズとわたし」の関係を考えてみたい。だれが何を支え、何を防ごうとしているのか。そして、どのような影響を受けてきたのか。どこかでエイズの流行と触れあっている「わたし」。すれ違ったかもしれない「わたし」。いろいろな人たちの「エイズとわたし」を聞いてみたい。紹介できる機会を作りたい。そんな思いが「エイズとわたし 支えることと 防ぐこと」には込められています。

【収支報告】

収 入

エイズ予防財団負担金 498,402

支 出

委 託 費	255,000	ウェブサイトのデザイン、情報更新
印刷製本費	168,000	チラシ作製
通信運搬費	48,888	チラシ発送
賃 借 料	4,458	ウェブサーバーホスティング料
外 注 費	20,166	チラシ発送作業
雑 費	1,890	振込手数料
支出計	498,402	